

# 南山の風

## 桜薫る春！27年度が艶やかにスタート！

平成27年度がスタートしました。1月の国会にて「児童養護施設等の職員配置基準の改善」が閣議決定されたことを受け、3月の名古屋市議会においても同様の決定がなされたため、職員配置が「入所児童5.5人に対して職員1名」から「入所児童4人に対して職員1名」という基準に改善されました。

これにより、平成28年4月1日には、保育士や児童指導員など、子どもたちのケアに関わる職員(直接処遇職員)の数を増やすことができるようになりました。南山寮は定員55名。単純計算で55名を5.5で割ると10名となりますが、配置基準の改正により14名という職員数が実現するわけです。この1年をかけて、子どもたちに安全・安心を担保し、温かな優しさや厳しい優しさをもって接してくれるような、子どもたちに笑顔と希望と未来を与えてくれるような人材を確保できるよう努力する所存です。

【平成27年度の南山寮の体制】 (児童：51名 職員：31名 4月1日現在)

部屋名	幼児		小学生		中学生		高校生		施設長：山田 統括主任：北村
	男	女	男	女	男	女	男	女	<担当職員>
オリオン1F：12	8	4							稲井L・郷内SL・黒田・落合・(妹尾) 川島・小菅
スバル 2F：8			3		1		4		木村L・富川・安本 北SL・林・浅井・市野
コスモ 2F：13			8		3		2		
オーロラ3F：8				5		3			伊藤L・苅谷・金子 石黒SL・堀尾・牧野・大島
コメット3F：11				4		5		1	
小計	8	4	11	9	4	8	6	1	
合計	12		20		12		7		厨房：宮沢S・丹羽・田邊・鈴木・馬場

統括主任(家庭支援)：北村S 個別対応：川崎 フリー保育士：妹尾  
 栄養士：鈴木 事務：澤 <※ 略語 S：主任 L：リーダー SL：サブリーダー>

## 平成27年度 南山寮事業計画

### 1 基本方針

- ・南山寮職員一同は、「人間性豊かな人間形成(いのちの輝き)を追求する」という基本指標を常に念頭に置き、入所児童が心身ともに健やかに育つべく日々の処遇に努めるとともに、児童の社会的自立に向けて全力でサポートします。
- ・職員一同、社会的養護の基本理念である「子どもの最善の利益のために」を念頭に常に権利擁護の立場に立ち、子どもたちが幸せに生きる権利を守り、権利と責任の大切さを伝えます。また、積極的に地域社会と関わり、地域住民に愛され、信頼される施設になります。
- ・児童相談所や子ども福祉課など関係機関との連携を強化し、アドミッションケア(入所前のケア)からインケア(入所中のケア)、リービングケア(自立支援)、アフターケア(退所後のケア)までのパーマネンシープランニング(永続的養育計画)の充実に努めます。

・地球人として、「いのち」を大切にできる心、人との絆を大切にできる心、物を大切に扱う心を育てます。

## 2 主な課題

- (1) 児童養護施設運営指針、児童養護施設における人権擁護のためのチェックリストおよび名古屋市子どもの権利ノートに照らし、施設における新たな社会的養護の体制を見直すとともに、さらなる子どもたちの権利擁護の強化に努める必要があります。
- (2) 子どもたちの成育歴、心身状況や生活状況を丁寧に検証・把握すべくアセスメント（事前評価・査定）を行ない、自立支援計画の作成・評価・見直しを適宜実施し、パーマネントケア（永続的支援）の充実を図るべく努力する必要があります。
- (3) 虐待の連鎖・貧困の連鎖を予防し、子どもたちが自己肯定感と社会性を高めて他者との関わりの中でしっかりと生活していくため、「いのち」の大切さ、人の絆の大切さをしっかりと学ぶ機会を提供する必要があります。
- (4) 子どもたちの健康と安全を守るべく、ヒヤリ・ハットの検証も含め、事故・感染症・災害の発生を意識した取り組みを日常的に行い、リスクマネジメント（危機管理）に努める必要があります。
- (5) 「児童養護施設等の職員配置基準の改善」が国会で閣議決定され、新たに良き人材を確保する必要があります。同時に、子どもたちにとってより良いケアを提供すべく、職員一人ひとりの援助技術や専門性を高め、子どもに関わる職員としての資質を向上させる研修計画を立て、施設全体の養育・支援の資質向上を図る必要があります。

## 3 主な方策

- (1) 職員は日々子どもたちとの関わりの中で、常に権利擁護を第一義とし、子どもたちの安全・安心を保障します。
  - ・児童養護施設運営指針、南山寮倫理綱領の遵守の遵守
  - ・名古屋市子どもの権利ノートや人権擁護のためのチェックリストの活用
  - ・第三者評価（自己評価）、施設内虐待対応マニュアル、ヒヤリ・ハットの検証
  - ・児童の意見表明権の保障の場としての子どもサロンの活動
  - ・児童の安全・安心を担保するため、計画的な研修受講による専門性の獲得、性教育などより良い実践の工夫、援助技術の獲得
- (2) 入所児童のより豊かな“育ち”につながる自立支援計画を策定します。
  - ・当事者である子どもの意向や課題を明確にした自立支援計画の策定と評価の実施
  - ・日々の児童記録の充実と南山寮独自の1年間児童記録のまとめの作成と検証
  - ・心理士や児相福祉司などの専門職や関係機関との有機的連携
  - ・自立支援計画や権利擁護の先進例を実践している施設の見学
- (3) 地域に開かれた施設として地域社会とのコミュニケーションを図り、関係機関とのネットワークを強化して、子どもたちのより良き育ちを追求します。
  - ・児童福祉司や専門家を交えての施設内研修やケースカンファレンス（事例検討会議）の実施
  - ・学校行事、子ども会行事など地域社会への積極的な協力と参加
  - ・防災を軸とした町内会との連携および施設の防災対策の充実
  - ・子育て支援グループなど地域社会へのふれあいホールの開放
  - ・南山寮（の子どもたち）を支援してくださる人的資源のネットワーク作り
  - ・表現活動（ダンスチーム、バンド活動、アフリカ太鼓など）を通じての児童の人格形成
- (4) 南山寮の将来設計として、施設の小規模化および施設機能の地域分散化を追求します。
  - ・現行の小規模グループケアユニットの充実、および、小規模グループケアユニットの増設や、地域小規模児童養護施設の開設にあたっての準備
  - ・家庭的養護推進計画の定期的な見直しと職員配置基準引き上げにともなう人材確保に向けての努力
- (5) 建築から16年経ち、経年劣化により施設設備の不具合が目立ちます。中長期にわたる施設設備整備計画を立てるとともに、入所児童と職員が一緒になって「エコ」に取り組む雰囲気を作ります。
  - ・空調設備の入れ替えを実施、継続的に施設設備の修理交換を実施
  - ・エコキャップ運動、光熱費節約運動の継続

※                     部分：今年度の重要施策

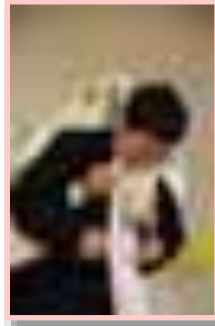
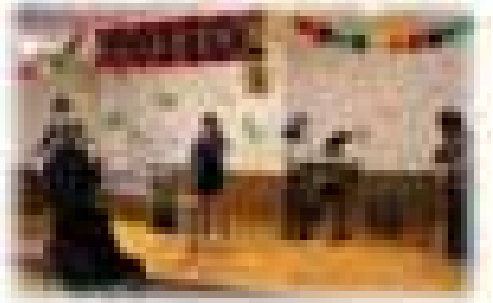
# 心温まる空間 卒寮生を送る会！

今年度の「卒寮生を送る会」は3月8日（日）に開催され、高校3年生の男子児童1名が旅立ちをお祝いしました。「卒寮生を送る会」は、職員と子どもたちが実行委員会を結成して企画運営していく手作りのイベントです。今回は、理事会を代表して隈元眞理子理事、法人を代表して島津香氏も、共に卒寮生の門出を祝っていただきました。

会場入り口には、卒寮生を迎え入れるウェルカムボードが掲げられ、まるで結婚披露宴の様です。卒寮するAくんの成長の様子が分かる3段階の等身大パネルが設置され、子どもたちからのお祝いのメッセージがタペタと貼り付けられていました。

子どもたち、職員、来賓の皆さんによる万雷の拍手の中、主役のAくんが恥ずかしそうに入場。最初に、来賓の隈元理事より温かいはなむけのお言葉をいただき、愛知育児院友の会からの卒寮記念品（印鑑と商品券）がAくんに手渡しされました。担当職員によるAくん紹介の後、みんなで乾杯！昨年までは午後におやつを食べながらの会でしたが、今年はランチを兼ねての「卒寮生を送る会」が企画され、厨房で作ってもらったオードブルやパスタを全員で食しました。

今年の送る会も一番盛り上がったのは、例年通り、子どもたちによる“パフォーマンス（出し物）”の披露と、職員による“余興”でした。まずは、「愛知育児院ふれあいまつり」や「KIPイベント」にも出演した3つのバンドが演奏を披露して会場を盛り上げました。圧巻だったのが、各フロアからの出し物。2F（男子）はまず職員と中3児童がコンビを組んでのお笑い。次に2F全員で「3月9日」を合唱。3F（女子）は、「牛乳早飲み競争」に始まり、「なわとび」「けん玉」「エアギター」「ピアノ演奏」などの得意技の披露があり、いま巷で流行りのお笑い「ラッスンゴレライ」、他にも「空き缶積み競争」や「二人羽織でカップ麺」と子どもたちの自発性が前面に出た内容でした。1F（幼児）は、可愛らしく「アナと雪の女王」を熱唱した後、「ようかい体操第一」を元気よく踊ってくれました。職員の出し物は、流行語大賞







にもなった「ダメよ～！ダメダメ！」を扮装もバッチリきめての熱演。子どもたちにはオオウケでしたが、幼児さんが2人ほど怖がって泣いてしまいました。

今回の出し物のクオリティはどれもとても高く、全員で楽しみながらAくんの巣立ちを祝うことができた様に思います。3月末に13年もの長きにわたって過ごしてきた南山寮を退寮し、社会人としての新たな人生を歩み始めるAくんの挨拶はしっかりしたものでした。13年間お世話になった一人ひとりの職員への感謝の気持ちを述べながら、南山寮での一番の思い出は「毎日を普通に楽しく過ごせたこと」と語ってくれました。

## 駒方中・八事小 卒業式～新たな地平へ！

3月5日（金）、駒方中学校の卒業式がありました。南山寮の中3生4名が晴れて義務教育を卒業し、高等学校に進学することとなりました。駒方中の卒業式は、厳粛な中でも卒業生をやさしく包み込む温かな雰囲気のあるものでした。圧巻だったのは、在校生代表の読んだ送辞と、卒業生代表の読んだ答辞の内容の素晴らしさでした。おそらく先生方のきめ細やかなアドバイスがあつての文面だったとは思のですが、代表として読んだ生徒の読み方が鮮明であると同時に、感情がしっかり込められていて、卒業生だけでなく、保護者をも感動させるものでした。保護者席で最も感動して滂沱の涙を流していたのは、なんと南山寮のA指導員でした。自分の担当児童の卒業をあふ



れる涙と鼻水で祝福していました。卒業式を終えた生徒たちは、校門に掲げられた「卒業式」の看板をバックに記念撮影！春の温かな陽射しが真っ青な空とともに卒業生の旅立ちをお祝いしてくれました。



八事小学校の卒業式が挙行されたのは3月19日（木）…今年は5名の6年生が八事小学校を巣立ち、4月から中学生になります。八事小学校の卒業式も先生方の指導でオリジナリティ溢れた内容でした。

校長先生から卒業証書を受け取る前に、卒業生一人ひとりが大きな声で「6年間で一番印象に残ったこと」もしくは「将来の夢」を語ってから校長先生の前に進み出るのは、南山寮の6年生も、「将来は介護士になって、お年寄りのお世話をします！」「サッカー選手になってワールドカップで活躍します！」「料理人になりたいです！」「修学旅行中に友だちといろいろなことを話したのが一番の思い出です！」「運動会でみんなと一緒に協力して行った組体操が一番思い出に残っています！」…堂々と夢や思い出を語ってくれました。式の最後の「門出の言葉」も素晴らしかったです。感動的だったのは、お世話になった「お父さん・お母さん」「学校の先生方」の次に、「寮の先生方」というフレーズを南山寮と駒方寮の子どもたち全員で言ってくれたことです。この日はまさしく涙雨でした。



校長先生から卒業証書を受け取る前に、卒業生一人ひとりが大きな声で「6年間で一番印象に残ったこと」もしくは「将来の夢」を語ってから校長先生の前に進み出るのは、南山寮の6年生も、「将来は介護士になって、お年寄りのお世話をします！」「サッカー選手になってワールドカップで活躍します！」「料理人になりたいです！」「修学旅行中に友だちといろいろなことを話したのが一番の思い出です！」「運動会でみんなと一緒に協力して行った組体操が一番思い出に残っています！」…堂々と夢や思い出を語ってくれました。式の最後の「門出の言葉」も素晴らしかったです。感動的だったのは、お世話になった「お父さん・お母さん」「学校の先生方」の次に、「寮の先生方」というフレーズを南山寮と駒方寮の子どもたち全員で言ってくれたことです。この日はまさしく涙雨でした。

# 南山中高 スプリングカーニバル招待！

南山中学・高等学校男子部の生徒会が実行委員会形式で開催して下さっている「第9回 スプリングカーニバル」が開催され、南山寮の子どもたち23名が招待を受けて参加しました。まずは、調理室にて、南山男子部のみならず女子部生徒会の皆さん



や先生方と一緒に、豚汁の食材を切ったり、おにぎりを握ったり…昼食のための調理実習タイム。その後、講堂へ移動して、南山中学・高等学校が誇る部活動によるパフォーマンスタイムがスタート。ブラスバンド部による演奏では、妖怪ウォッチなど、南山寮や名広愛児園の子どもたちが喜ぶ曲目が奏でられました。演劇部はお笑いを熱演…子どもたちが喜ぶツボをよく押さえ、大爆笑でした。奇術部は、顧問のボッチ☆アダムス先生と一緒に、



瞬間移動のイリュージョンに挑戦し、見事に子どもたちを驚愕させてくれました。講堂企画では、昨年に引き続き、南山寮のダンスチーム NANZaaaaN によるパフォーマンスの機会も作っていただきました。30年前、かのマザー・テレサがこの講堂にて講演をしました。マザー・テレサは、きっと、優しく慈愛に満ちた眼差しで、天国から NANZaaaaN の躍動する姿を見てくれたことでしょう。



講堂企画が終わると、階下にてランチタイム&ふれあいタイム。午前中にお手伝いしたおにぎり、豚汁、そして焼き芋をおいしくいただくと、子どもたちは中高生のお兄さんたちのところへダッシュ！ 中高生のお兄さんたちは、綿あめ、割り箸鉄砲、将棋やマジックショーのコーナーを屋内で、



ドッチボールやサッカーのコーナーを屋外で準備してくれていました。南山寮のアクティブな子どもたちは、お兄さんたちとのドッチボールを楽しんでいました。さすがに中高生のお兄さんたちは手加減して相手してくれていましたが、南山寮の子どもたちの元気に触発され、ときおり本気モードでボールを投げる場面もあり、見ていて飽きませんでした。屋内で過ごしたインドアな子どもたちは、綿あめを一人当たり5本は食べ、焼き芋にかぶりつきつつ、奇術部のお兄さんたちのカードマジックを楽しんでいました。

ところで、「KIPイベント」などでもお世話になっている南山中学・高等学校男子部ですが、この4月からの2カ年で校舎の建て替えを計画されているとのこと。町内会の回覧板にも、その計画概要が地域に示されていました。生徒会担当の伊藤先生からも、この2年間は工事のためにスプリングカーニバルの活動も制限されるかもしれないとの弁がありました。ここの卒業生である記者は、懐かしい学び舎がなくなってしまうのを淋しく感じます。澤田副校長先生は「変えられないものを受け入れる心の静けさと、変えられるものを変える勇気と、その両者を見分ける英知をもって、南山が育てきた教育を、そして次の時代の担い手を育てる教育を今後も継承していく」と語られています。どんな新校舎ができるか楽しみです。





## 八事杵中心しぎ散歩 ① なぜ？ 桜の木が3本だけ歩道の真ん中に！

いりなか駅の東側の交差点（旧道と新道が合流する地点）から、滝川小学校の方向へ北東に伸びる筋には、見事な桜並木があり、知る人ぞ知る花見スポットになっています。おそらく道路と歩道を整備するにあたり、歩道の内側に沿って桜の木が規則正しく植えられたものだと思います。しかしながら、不思議なことに、歩行者の通行を妨げるがごとく、歩道の真ん中近くや歩道の反対側に立つ桜の木が3本だけあります。なぜこの3本だけ他の桜の木と異なる位置に立っているのでしょうか。実は、この3本の桜の木は昭和初期の土地区画整理事業に際して植えられたものです。この桜の木の北西側に立つマンションのあたりは、かつて新池という名の溜池でした。当時、八事一帯を風致地区にすべく、池の周囲を囲むように池の堤に桜の木が植えられました。この3本の桜の木はここが池だったことを知る言わば“生き証人”なのです。



### コラム 南山隼人

#### 「世界一貧しい大統領」

2012年の国連持続可能な開発会議（リオ会議）でのスピーチにより、一躍時の人となったウルグアイのムヒカ大統領。「世界一貧しい大統領」と呼ばれ、同名のタイトルの絵本は売り切れ状態だ。

なぜ「世界一貧しい」と呼ばれるのか…それは大統領としての給与の90%を慈善事業に寄付し、地位に見合わず、非常につましやかな生活を送っているからである。大統領公邸には住まず、ウルグアイの首都モンテビデオのほずれにある小さな農場に住んでおり、妻である上院議員ルシア・トボランスキーと3本足の犬マニーエラとともに、農場の花の世話をしたり、野外で作業をしたりと、ささやかな暮らしを送っている。質素な生活や地に足のついた質実剛健な考え方から、国民に広く愛され、支持されている。ホームレスの男性に小銭をめぐべんと言われたときも、「あいにく、今小銭は持ってないんだ。これで勘弁してくれ。」と100ペソ紙幣を渡し、感激のあまり、その男性が「永遠にウルグアイの大統領でいてくれ！」と叫んだという実話がタイムス誌で取り上げられる等、その素朴で暖かな人柄を現すエピソードが数多く報道されている。

ムヒカ大統領は語る。「世界一貧しい大統領」と呼ばれている。でも、自分では貧乏とは思っていない。本当に「貧しい人」は、せいぜいな暮らしを保つために働く人だ。そして常に何でも欲しがる。「もっと！ もっと！」と。多くの財産を持たない人は、財産を維持するために奴隷のように働き続ける必要がない。財産はなくても、自分のための時間がある。これは誰にでもできる自由な選択だ」

ムヒカ大統領がリオ会議でスピーチしたとき、ウルグアイのような小国の代表のスピーチはもちろん後回しにされ、それに耳を傾ける人はほとんどいなかった。そのような状況にもかかわらず、経済の拡大を目指している現代社会に対して、明確な警鐘をならしたスピーチは、全世界へと動画配信され、大きな話題を呼びに至り、絵本にもなった。

リオ会議でのスピーチで最も印象的なのは次の指摘だ。

「私たちは発展するために生まれてきているわけではありません。幸せになるためにこの地球にやってきたのです」

「発展は幸福を阻害するものであってはいけません。発展は人類に幸福をもたらすものでなくてはなりません。愛情や人間関係、子どもを育てること、友達を持つこと、そして必要最低限のものを持つこと。これらをもたらしべきなのです」

「貧乏な人とは、少ししかものを持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことです」

日本人にはとても耳の痛い内容のスピーチだったからこそ、絵本が爆発的に売れているのだ。 (リョウチヨウ)

平成27年 4月号

(月刊：毎月1日発行)

<明治19年10月 第三種郵便物無認可>

発行：社会福祉法人 愛知育児院  
児童養護施設 南山寮

編集責任者： 施設長 山田 勝己

〒466-0835 名古屋市昭和区南山町5番地

TEL (052)831-3750 FAX (052)835-7483

e-mail: [nanzanryo.1909@space.ocn.ne.jp](mailto:nanzanryo.1909@space.ocn.ne.jp)